

## WEEKLY REPORT

### <5クラブ会長エレクト、地区テーマについて発表>

発表内容は成果簿を参照ください。



### <2019年規定審議会報告:パストガバナー・地区研修サプリーダー ・ロータリー研修委員長:寺嶋 哲生様>



### <講評:パストガバナー得居 仁様>



社会奉仕基金 円 《会報編集委員》野澤新之助・鈴木悦朗・小林辰幸・関征啓

Rotary  2019-2020年度

## 国際ロータリー 第2790地区 第13グループ 松戸北ロータリークラブ会報



「四つのテスト」 言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第2270回 例会 2019年10月10日(木)

5クラブ合同例会・ロータリー情報研修会

- 国際ロータリー会長 M・ダニエル・マローニー
- 第2790地区ガバナー 諸岡 靖彦
- 第13G アシスタントガバナー 森谷 博
- 松戸北ロータリークラブ会長 大川 高明
- 松戸北ロータリークラブ幹事 柳 孝実
- 例会日 - 毎週水曜日12:30より (第1例会18:30)
- 例会場 - 流山市前ヶ崎717「柏日本閣」
- 事務所 - 松戸市八ヶ崎1-11-13 サライズ'ハイツ101
- TEL/FAX - 047-711-5950 / 047-711-5910
- Web/Mail - www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp

## WEEKLY REPORT

### <5クラブ合同例会プログラム>

#### 【第1部】

12:30	点鐘	松戸中央RC会長	尾崎 裕一	
	国家及びロータリーソング斉唱	【♪君が代 四つのテスト】		
	お客様紹介	松戸中央RCSAA	小熊 祐子	
	5クラブ会長幹事紹介	松戸中央RC幹事	浦 昭二郎	
12:40	会長挨拶	5クラブ代表	松戸中央RC会長	尾崎 裕一
12:50	点鐘	松戸RC会長	中澤 雅彦	

### <ロータリー情報研修会>

#### 【第2部】

13:00	挨拶	第13グループ	ガバナー補佐	森谷 博	
13:05	基調講話	「クラブの活性化について」～クラブを元気にする～	2790地区	ガバナーエレクト	漆原 節子様
13:35	5クラブ会長エレクト、地区テーマについて発表				
14:25	2019年規定審議会報告	PG・地区研修サプリーダー・ロータリー研修委員長	寺嶋哲生様		
14:55	質疑応答				
15:05	講評	パストガバナー	得居 仁様		
15:15	閉会挨拶	第13グループ	ガバナー補佐	森谷 博	

### <5クラブ代表会長挨拶:尾崎裕一松戸中央RC会長>

松戸中央ロータリークラブの本年度会長を務めます尾崎裕一と申します。5クラブを代表としてご挨拶いたします。

情報研修会にて基調講和を賜ります次年度ガバナーエレクトの漆原摂子様ご多用の中お越しいただき講和を賜りますこと心より感謝いたします。また、パストガバナーであり地区研修サプリーダー、ロータリー研修委員長の寺嶋哲生様 標準ロータリークラブ定款に関する改正点等のご説明よろしく願いたします。

パストガバナーの土屋亮平様、石井亮太郎様 得居仁様 ご出席頂きましたこと感謝いたします 特にパストガバナー得居様におかれましては講評をお願いしております。よろしく願いたします。

5クラブの皆様ご多用の中かくも大勢の皆様にお参加いただき感謝します。

令和1年9月9日未明の台風15号におきまして甚大な被害にあわれました千葉県南部の方々、先般の奉仕セミナーにおいても鋸南ロータリークラブの清水会長からビデオでの被害状況の説明と近隣のクラブからの温かい支援につきまして報告を受けました。心からお見舞い申し上げると共に早い復旧を心より祈ります。

情報研修会はロータリー情報の発信とネットワークの共有にあります。

多くのロータリアンの方々の意見を集約し「ローカルにしてグローバル」この地域から未来のロータリークラブの在り方を発信できたらと希望します。

パストガバナーの寺嶋哲生様から2019年規定審議会報告がございまして。出席の柔軟性等大きく改正されました。私個人的には職業分類の制限を廃止することに若干の疑問を感じます。

ロータリーは職業奉仕のなかでも高い倫理基準を持って行動するとありますが職業分類の撤廃によりクラブが一部の業種に偏ることを懸念します。

ここにご参集頂きました多くのロータリアン皆様のご意見を拝聴しロータリー情報研修会が盛会でありますこと祈念します。



## WEEKLY REPORT

しかしRIは、ロータリーの基本理念は不変であると言い続けています。規定審議会でのいくつかの変更事項は、ロータリーの本質からの逸脱を認めるものではないと信じています。

ロータリアンは事業や専門職及び地域社会のリーダーであることに変わりはありません。

最初にお話した、ロータリーの基本的信条である「ロータリーの目的」に変更はありません。

ロータリーの5つの中核的価値観、奉仕・親睦・高潔性・多様性・リーダーシップに変更はありません。ロータリーの最も大きな特徴のひとつである「4つのテスト」に変更はありません。

また、国際ロータリーを成り立たせている各クラブは、標準ロータリークラブ定款に違背しない限り、そのクラブの伝統や個性や地域性を鑑み、クラブ独自の細則を作ることができます。メイクアップに関する規定ですが、今年の規定審議会で、従来の例会の前後2週間から、1年以内が認められました。が、「やはりうちのクラブは前後2週間以内」としたい場合は、細則でその旨を記載してよいというRIの確認も取れています。このように、それぞれのクラブにはカラーがありますので、そのカラーを活かし、クラブが生き生きとするための、クラブなりの柔軟性をもって、独自の細則をつくる、そのような自治権が認められています。

さて、私たちロータリアンが目指すビジョン声明があります。「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能なよい変化を生むために、人びとが手をとりあつて行動する世界を目指します。」これがロータリーのビジョン声明です。

そして先程申しました、ロータリーが大切に守り続けている不変のものがあります。それは4つのテストであり、ロータリーの目的であり、ロータリーの中核的価値観などです。これを基盤に、これも先程お話ししました具体的な4つの行動計画—より大きなインパクトをもたらす・参加者の基盤を広げる・参加者の積極的なかわりを促す・適応力を高める—を実践することで、ロータリーのビジョン声明の実現にたどりつくものと信じたいと思います。

それではまともに入りたいと思います。クラブ活性化・存続のためには、まずはクラブの会員増強、維持拡大が大切であることは今まで述べてきた通りです。それには、今年7月にRIから新しく発表された、4つの戦略的優先事項→マローニー会長が仰るところの、4つの行動計画の実践が有効と考えます。

更に具体的には、まずはクラブの現状を把握します。会員の数・年齢層・会員の特徴を把握します。そうすることで、将来どの年代のどんなスキルを持った人がいてくれると良いという点が見えてくるはずで

す。次に、現在の会員が、クラブの例会はもとより、奉仕活動に積極的に参加し、ロータリーを色々な意味で学んで体得してくれる環境を整えます。

そして地域や世界で行動することで、周囲にロータリーの認知度を高め、印象付け、会員候補者が増えてくるのではないのでしょうか。

また、せっかく入会してくれた新会員が、居心地よく楽しくロータリーを学び実践できるように、昔からの会員は気配りを忘れてはいけません。

そして、今のクラブがこのめまぐるしく変化する周囲の状況に対応できているか、会員の満足度は満たされているだろうか、この点をきちんと把握しなければならないと思います。クラブの将来に不安を感じたらクラブのあり方を変えるべきで、そのときに柔軟性をもって対応しなければならないと思います。

そして、このような項目を毎年見直す、それがクラブ戦略計画委員会が担う役割だと考えます。

ロータリーは人づくり、ロータリーは人を育て、ロータリーは私たち自身を成長させてくれます。最後に、ポール・ハリスが、その人生で繰り返して述べてきた言葉「ロータリアンよ、寛容であれ！」この言葉をもって、本日ご参加の皆様がよりロータリーを楽しまれ、仲間を増やしクラブを存続させていかれることを心より願ひまして、終わります。ご清聴ありがとうございました。



## WEEKLY REPORT

「参加者の積極的なかわりを促す」、活動に参加した参加者やロータリアンのモチベーションを維持するには、その参加者なりロータリアンが活動を楽しみ、やりがいを感じなければ、続かないでしょう。奉仕活動に参加するロータリアンもそうでない人も、自分の存在が認められ、声が聞き入れられていると嬉しいものです。ロータリアンも含めた参加者たちは、個人的、職業的に重要で、やりがいのある体験を求めています。ロータリーから何か得られると分かれば、参加者たちは、ほかに多くのボランティア活動の選択肢があったとしても、ロータリーの活動に全力を注いでくれるようになります。そのためには、参加者には役割を的確に与え実践してもらうことが大切だと思います。また参加者への教育・研修も大切です。ロータリーについて少しずつでも学んでゆくことで、価値観や意義も明確に把握することになるでしょう。また参加者の新しい意見や考え、アイデアには耳を傾け、丁寧に理解しましょう。このような気配りが、参加者へ満足感を与え、更にロータリーへ覚醒してゆくでしょう。

「適応力を高める」、ロータリーが設立された1905年から現在に至るまで、社会の情勢は波乱万丈でした。これらの変化に富んだ時代はロータリーの活動にももちろん影響を与えましたが、その都度我々は対応をしてRを存続させてきました。そしてこれからもクラブを永続させるためには、若い世代を後継者としてロータリーに迎え入れる必要があります。この多忙な現代に生きる若い職業人や活動家に入会してもらうためには、私たちはあらゆる場面において柔軟性を導入する必要があります。今年4月の規定審議会で決定となった、新しい形態のクラブや会員種類の導入、メーキャップ年度内規定などの改正です。

2016年、前々回の規定審議会において、ウィリアム・ボイド元会長ービルというのはウィリアムのニックネームですーこの方は2006年度のRI会長でニュージーランドの方ですが、この方もこのように仰っています。クラブの活力減退が今日のRの最大の課題である。若い人たちがクラブに入会しなければ、Rは消滅する。若い人達には、より柔軟性をもった例会を！と提言をされています。

さて会員増強のお話をし続けて参りましたが、ここでよく言われるのが、やみくもに数を増やせばよいというものではないんじゃないか、会員の質にも気をつけるべきだ！というご意見です。

しかし、RIに興味を持って入会に至った方というのは、性善説的な私見となりますが、そんなにメチャクチャな人はいないだろう、と信じたいです。それよりも、会員の奉仕活動により公共イメージが向上し、せっかく入会していただいた方に、色々な意味でロータリーを真に楽しんでもらうために、研修が大切であると思います。クラブ内のオリエンテーションでロータリーのいろはから学んでいただき、更には地区での様々なセミナーやRIなどに参加してもらうことで、多様な考えを受け入れ、クラブを超えた友好関係を築くことが出来ます。併せて親睦を深めるために、クラブ独自の親睦活動ー飲み会・食事会でもよいでしょうし、ゴルフや釣り、ツーリングなど趣味による活動も、親睦を深めるためには有効であると思います。

奉仕活動による公共イメージの向上の結果、会員増強に繋がるでしょう。その会員に対し研修を実施し親睦を重ねることで、会員のモチベーションも向上し、新たな奉仕活動への意欲に繋がるでしょう。このようにしてクラブは成り立っているのではないかと思います。

ロータリーの創設者のポール・ハリスも、このように述べています。「世界は絶えず変化している。そして私たちは世界と共に変化する心構えがなければならない。ロータリーの物語は何度も何度も書き換えられなければならない。」これはポール・ハリスの著書の一つ「This Rotarian Ageーロータリーの理想と友愛」で述べられています。ロータリー設立が1905年、31年後にこのようなことを既にポール語っているのです。それだけ世界の情勢がめまぐるしく変容しー確かに大きな戦争や大恐慌もありましたーその変化に柔軟に対応することがロータリー存続のキーであるということ述べているのだと理解します。

さて、これまでさんざん、会員増強・維持のためには、変化に柔軟に対応し、また多様性を認めるべきである、と語って参りましたが、しかし私自身、やはり入会当初の厳格なロータリーのあり方、すなわち、例会の大切さや職業倫理を重んじることなどが当然とっていましたので、前回、そして今回の規定審議会での可決事項のいくつかに、正直違和感がありました。

## WEEKLY REPORT

### <第13グループガバナー補佐挨拶:森谷 博ガバナー補佐>

皆様こんにちは。2019-20年度第13グループのガバナー補佐を努めています、松戸中央ロータリークラブ所属の森谷 博です。よろしくお願い致します。

ガバナー補佐主催でロータリー情報研修会を開催するように指示をされております。

本日の第13グループのロータリー情報研修会には、多数の会員の皆様のご出席をいただきありがとうございます。また、ロータリー情報研修会の開催にあたり、第2790地区ガバナーエレクトの漆原摂子様、又、パストガバナー、地区研修サプリーダー、研修委員長の寺嶋哲生様はじめ、地区委員長、委員の皆様には、ご尽力、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、国際ロータリーのマローニ会長は、「ロータリーは世界をつなぐ」(Rotary Connects The World)のテーマを打ち出されました。そして、第2790地区の諸岡靖彦ガバナーは、マローニ会長のテーマを受けまして、「ロータリーから千葉を元気に」のスローガンを掲げました。そして、『千葉を元気にするためには、地区内クラブが元気にならなければなりません。私の使命はクラブを鼓舞し、クラブを元気にすることです。地区組織の総力を挙げてクラブを元気にする』としております。

又、『クラブが地域社会に働きかける要件として、クラブが元気でなければ地域社会に対して、健全な提案やリーダーシップが発揮できません。会員基盤を多様化させてクラブを持続的に盛り上げていくことが大切です。国際ロータリーは「リーダーを集めて意見を交換してそして行動する」という事が方針である』ということとされました。

そして、『ロータリー情報研修会では「クラブの活性化」について、グループ内クラブが討議し交流できる機会として取組み、クラブの日常活動が楽しく運営できる基盤づくりや、柔軟性、刷新性について相互にインスピレーション(Inspiration)が得られる会合にして下さい』との事であります。

又、『地区運営の基本的な考えとして、地区ロータリーを元気にするための目標として地区3,000会員300女性会員、30会員未満のクラブの基盤強化、3クラブの新設を目指す』としております。それを踏まえまして、本日の基調講話を第2790地区としては、女性で初めて2020-21年度ガバナーとなられます、ガバナーエレクトの漆原摂子様をお願い致しました。

諸岡靖彦ガバナーのスローガン「ロータリーから千葉を元気に」を、達成するにはクラブの活性化が欠かせません。クラブを元気にするための指針を、女性会員の視点からお話しいただきますことを楽しみにしています。

又、パストガバナー、地区研修サプリーダー、ロータリー研修委員長の寺嶋哲生様には2019年規定審議会報告をいただきます。様々な改正点がありますが、私達の身近な問題に絞り解説していただきます。

本日のロータリー情報研修会が、会員の皆様にとって有意義な研修会となりますようご祈念申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。



### ■米山梅吉 (UMEKICHI YONEYAMA) ■

1920年世界855番目のRC(東京RC)を創立し、日本に初めてロータリーを導入した。東京RCの初代会長に就任し、日本のロータリーの発展の基礎を築いてくれた偉大な人である。



## ＜基調講話 国際ロータリー第2790地区2019-2020年度ガバナーエレクト＞

：漆原 摂子様＞

皆様こんにちは。ただいまご紹介いただきました、第6グループ勝浦RC所属、ガバナーエレクトを仰せつかっております漆原摂子と申します。本日は貴グループの貴重な情報研修会の時間をいただきまして、森谷ガバナー補佐の命を受け、「クラブの活性化について」について語ることとなりました。と申しましても、第13グループの5クラブの皆様におかれましては、会員数・活動内容におきましても素晴らしいものと拝察致します。また今月のガバナー月信冒頭には、諸岡ガバナーが元気なクラブづくりに関する文書を寄稿されています。そんな中ですが本日は、RIの現状や方向性を鑑みながら、いつまでも存続するクラブとなるには、につき、私見を交えながらお話し申し上げます。



RIと日本の会員に関する現況を見てみましょう。120万という数字は今年9月末の数字です。前年7月1日の数字と比べるとプラス2万4千強で、クラブの数も同様に増えております。一方日本の数字は今年7月末の数字ですが、会員数・クラブ数とも、減少してしまっています。

本題に入る前に、ここでロータリーの目的を見てみましょう。「ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として、奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。」少々私見で置き換えてみます、「意義ある事業の基礎」とは、「価値のある職業や活動」と捉え、その基本となる「奉仕の理念」、チェスレー・ペリーの解釈するところの、thoughtfulness of, and helpfulness to others—他人を思いやり、他人のために貢献、活動しよう—という志を広く伝えることであると考えます。

ではここで、RIが2004年から推奨する、CLP クラブ・リーダーシップ・プランを見ましょう。いくつかの要素がありますが、いの一に挙げられているのが、会員基盤の維持拡大です。まずはクラブの3～5年後の姿を思い浮かべてください。今は人数も充分で成り立っているが、会員の高齢化や若手会員が少なくなってくると、どうしても存続に不安があります。私も今は元気ですが、30年後には確実に厳しい状態となります。現状のクラブの人数と年齢構成を考え、今後は、どんな年代の、どのようなスキルを持った人が必要か考えることも大切です。また前述の、ロータリーの目的を達成するためにも、同じ志を持つ仲間を増やすことが大切です。

そのためには、クラブは、自分のクラブの未来像を考える、戦略計画を持つことが重要となります。私の所属クラブでも、恥ずかしながら今までは戦略計画委員会は無く、理事会で方向性をなんとなく決めてまいりましたが、今年度より準備委員会を立ち上げたところです。短期・中長期での2方面からビジョン策定するものとし、会長エレクトと次年度幹事及び若手会員を多めに入れた委員会のメンバー構成をしております。

私がロータリーに入会したきっかけは、多くの皆様と同様に、地域のお取引先の社長さんからの勧誘でした。ロータリーについては、私が通っていた女子高では、長期交換学生を1-2名受け入れていましたし、親友の1人が長期でブラジルに行ったりと、認知はしておりました。また私には3才年上の姉がおりまして、かれこれ30年以上前の話となりますが、米国の大学院に留学するにあたり、東京麹町RC様にスポンサーとなつていただき、当時のロータリー財団国際親善奨学生として1年間奨学金をいただきましたのは、身近で有難い経験です。

ですので入会をさせていただきましたが、会員の年齢層は高く、オリエンテーションもないままに、入って半年くらいは例会を休みがちな不良会員でした。しかしほどなく、クラブの創立45周年事業や行事に向けての準備が始まり、クラブ会員全員が盛り上がる勢いを見て、これは休んでいられないなと思うようになりました。またその周年行事で役割を与えられたものですから、モチベーションも上がって参りました。

その後は少しずつロータリーの勉強に取り組むようになり、奉仕活動においては、自分の事業所であるホテルを利用しての地元小学生に対する食育を毎年実施、また東日本大震災発生後には、不自由な生活を強いられていた福島県立盲学校の生徒とその家族をホテルへご招待してリフレッシュしていただいたり、長期交換学生の受け入れやお世話など楽しくやりがいのある活動が続きました。海外への奉仕活動として、私が会長年度の時に、当クラブ初のグローバル補助金を利用してのスリランカ水事業を実施し、贈呈式にて多くの子供達の笑顔に囲まれたときは、本当にロータリーに入会してよかったと思う、私のロータリーモメントそのものでした。

勝浦RCの現状ですが、会員数44名、うち女性会員は5名、平均年齢は59歳です。

青少年交換は今年度は長期・短期各1名を実施しています。今年度の奉仕活動は、地区補助金プロジェクトとして、フィリピンの少年少女に安全な野球用具を寄贈します。フィリピンでは少年少女の野球が盛んですが硬球でやっており、ヘルメットや心臓ガードが全くないという現状です。地区補助金で用具調達資金をご援助いただき、明日の夜中の便でクラブ会長以下10名でダバオに行つて参ります。とは申しましても台風の関係で飛行機が飛ばさず、厳しい状態です。無事にフィリピンに着くことができたなら、現地ではロータリーデーを開催し、ポリオ根絶のキャンペーンも実施の予定です。勝浦地域での奉仕活動としましては、地域の小学生への食育教室やシッティングバレー教室開催、また親睦活動の一環としては地区の野球リーグに今年から参加させていただいております。グルメ会や日帰り旅行なども定期的に催し、懇親を深めております。

さて、RIは今年7月から、4つの新たな戦略的優先事項を打ち出しました。これまでは3つだったので、この7月から4つに、そして呼び方も、当初のstrategic plan(戦略計画・戦略的優先事項)から行動計画(Action Plan)と、RI会長のマーク・マローニー氏も強調しています。すなわち、実際にとるべき行動の指針ということでしょう。この4つの行動計画は向こう5年間継続することです。そして私は、この4つの事項を実践することが、会員増強維持拡大の道へと確実に繋がると考えています。ひとつひとつを考えてみたいと思います。

「より大きなインパクトをもたらす」、我々が30年以上にわたり取り組んできたポリオ根絶への運動をはじめ、青少年育成プログラムや、地域社会への奉仕活動、6つの重点分野に即した活動など、個人個人であれクラブとしての活動であれ、それを見た地域社会の人びとは、ロータリーに着目することでしょう。このロータリークラブはこんな素晴らしい活動をしているんだ、是非入ってみたい、と周囲に思わせるような活動をするのです。このようにしてロータリーの公共イメージが向上することにより、人びとのロータリーへの理解や興味が注がれ、会員増強の第一歩、入会へ繋がる可能性を高めることとなるでしょう。

「参加者の基盤を広げる」、ここでの参加者とは、ロータリアンを限定するものではないようです。英語の原文にもRotarianという表記はなく、People of ActionとParticipantsという、行動人・参加者という意味の言葉が表記されています。

整理して考えてみると、私たちロータリアンが地域で活動する際に、多くの一般の方々や他団体のの方々、若い人や、今までになかった人種性別の方々を呼んで一緒に活動することを受け入れようということだと考えます。その結果、多様性が生まれます。多様性に富んだメンバーからは、より様々な考え方、アイデアを相互に学びあうことができますし、今までになかった気づきも生まれます。先程の話と共通しますが、結果、ロータリーに興味を持った多様な種類の方々の入会促進に繋がり、クラブの会員基盤も広がります。

## ■ロータリーの奉仕哲学「超我の奉仕」Service above self■



Serviceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「理想的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。